



# 未利用の食品製造副産物を混ぜて飼料効率をアップ！

－名古屋コーチンにおける地域資源飼料の利用技術を開発－

## 開発の背景・ニーズ

飼料原料の多くは輸入に依存しており、長引く飼料価格の高騰が養鶏農家の経営を圧迫しています。そこで、肉用名古屋コーチンに対して県内で発生する未利用食品製造副産物（地域資源飼料）を活用することで、生産コストを低減する飼養管理技術の開発に取り組みました。

## 成果の内容

県内で発生する2つの食品製造副産物（乾燥出汁しぼり粕・バウムクーヘン屑）を市販配合飼料に添加混合し、4週齢から16週齢まで給与しました。その後は18週齢まで市販飼料を給与したところ、以下の効果が確認されました。

- 市販配合飼料単独での給与に比べて、飼料摂取量と飼料要求率\*が10%以上低減しました
- 飼料費が削減できるとともに、1羽当たりの粗利益も増加しました



### 試験の構成

週 齢	4		16		18	
	配合割合		栄養価			
対照区	市販配合飼料	100%	CP	18.0%	ME	2,850kcal
	市販配合飼料	86%	CP	19.3%	ME	2,930kcal
添加区	乾燥出汁しぼり粕	5%				
	バウムクーヘン屑	9%				

(CP：飼料中の粗たんぱく質含量 ME:飼料中の代謝エネルギー含量)

### 1羽当たりの生産成績と粗利益

区分	増体量 (g)	飼料摂取量 (g)	飼料要求率*	飼料費** (相対値)	粗利益*** (相対値)
対照区	2,323	10,273 <sup>a</sup>	4.42 <sup>a</sup>	100 <sup>a</sup>	100 <sup>b</sup>
添加区	2,352	9,103 <sup>b</sup>	3.87 <sup>b</sup>	86 <sup>b</sup>	117 <sup>a</sup>

\* 飼料要求率：1 kg増体するのに必要な飼料の量

\*\* 飼料費：試験期間中（4～18週齢）に摂取した1羽当たりの飼料量（kg/羽）×飼料単価（円/kg）

\*\*\*粗利益：1羽当たりの売上－飼料費（円）

同列異符号間に有意差あり(a,b:P<0.05)

## 愛知県農業への貢献

市販配合飼料に、食品製造副産物の乾燥出汁しぼり粕とバウムクーヘン屑を添加することで、肉用名古屋コーチンの発育成績は維持しつつ飼料摂取量が低減し、1羽当たりの粗利益が向上し、経営の安定化が期待できます。